

松下清雄（渡辺武夫）関連記事目録

伊藤淳史

A. 署名記事

1. 渡辺武夫「高知の日教組と労農提携」『農村と都市をむすぶ』第120号 1961年4月
※肩書は「茨城県農村労働組合連合会書記長」
2. 松下清雄「瀕死のダイダラボッチ」『現代の眼』第5巻第7号 1964年6月
3. 松下清雄「農村－この奇妙なるもの－」『現代の眼』第7巻第11号 1966年11月
4. 松下清雄「東南アジア農業に対する日本の経済技術協力－その見聞の若干の考察－」『現代の理論』第14巻第1号 1977年1月
5. 松下清雄（連載ルポ）「勤めと農業」『現代農業』第64巻第1号－第5号，第64巻第7号－第66巻第7号 1985年1月－5月，1985年7月－1987年7月
6. 松下清雄（連載ルポ）「村に仕事をおこす」『現代農業』第66巻第8号－第70巻第12号 1987年8月－1991年12月
7. 松下清雄「会合から老人クラブまで 弁当で村を元気に」『現代農業』第81巻第5号 2002年4月臨時増刊（1987年12月号の記事を改題のうえ掲載したもの）

B. 座談会・懇談会

8. 「常東農民運動－現地座談会－」『農民運動研究』第3号 1953年9月
※出席者に「本部書記 渡邊武夫」
9. 「農民戦線統一促進全国代表者会議の提唱－日農両派（主・統）中央委員有志懇談会－」『農民運動資料』第87号（農民戦線統一特集） 1956年10月
※1956年9月15日に日農主体性派・統一派中央委員および中立組合代表が参加して開催された懇談会の記録。茨城農民同盟より「渡辺武夫」参加
10. 法政大学大原社会問題研究所『日本労働年鑑』第30集，東洋経済新報社，1957年第2部第2編第2章第5節「農民戦線統一促進全国代表者会議の結成」
※日農両派中央委員有志懇談会（上掲9参照）における発言要旨掲載（488-491頁）

C. その他動向が判明するもの

11. 「運動方針小委員会及び報告」『農民運動資料』第68・69合併号（第九回大会議事録号） 1955年5月
※日農統一派第9回大会・運動方針小委員会（1955年3月29日）にて「下山田」（虎之介…伊藤）および「渡辺（茨城）」の発言が確認できる。
ただし、「渡辺（茨城）」が渡辺武夫のことを指すのかは未確定。
12. 「常東農民運動の現況－第十一回大会の報告討議から－」『農民運動資料』第78号

1956年2月

※常東農民組織総協議会第11回大会(1955年12月20日)の記録。出典は『常東農民新聞』第10号(1956年1月25日)より。「東茨城の一部の分裂」に関する質疑を掲載。

13. 『常東農民新聞』第11号 1956年5月1日

※常東農民組織総協議会機関紙。茨城農民同盟設立に関する記事「共産党の分裂政策を批判／東茨城郡協, 声明を発表」掲載。

14. 『茨城農民新聞』第2号 1956年6月10日

※茨城農民同盟機関紙。活動を伝える各種の記事にて「渡辺書記長」への言及あり。

15. 「渡里地区総合開発のたたかい－茨城県における農民運動の一例－」

『農民運動資料』第83・84合併号 1956年7月

※出典は『常東農民新聞』(1956年5月1日=第11号)および『茨城農民新聞』(1956年5月15日=第1号か)。

16. 島内一夫「高知の農民運動と教育労働者」『農民運動資料』第1巻第3号 1960年10月

17. 島内一夫「農民を組織した高知県教組」『月刊労働問題』第33号 1961年2月

※島内は全日農高知県連書記長。県連設立にむけた渡辺のオルグ活動を具体的に記述。

18. 法政大学大原社会問題研究所『日本労働年鑑』第34集, 東洋経済新報社, 1961年

第2部第2編第3章第1節「全日本農民組合連合会」

※全日農高知県連結成に関する記述にて渡辺に言及(260頁)

19. いいだもも「一柳茂次同志を偲ぶ」一柳茂次追悼集刊行会『一柳茂次 著作・回想』社会評論社, 2002年

※茨城県における渡辺の活動に言及

付記

筆者はこのほど松下清雄(渡辺武夫)に関する資料調査を行った。その経過報告として文献を三つに大別して示したが、ここから以下の三点を指摘したい。

第一に、従来松下については共産党早大細胞から常東農民組合(のち常東農民組織総協議会。以下両者を常東と略す)への参加、そして日農統一派第6回大会における常東の脱退という文脈において言及されることが多かった(たとえば、山口武秀『戦後日本の農民運動』黄土社, 1953年・安東仁兵衛『戦後日本共産党私記』文春文庫, 1995年)。しかし松下が常東にて活動したのは1950年代前半の一時期であった。「松下清雄略年譜(第一稿)」においては1951年(常東への参加。ただし、安東『戦後日本共産党私記』では1952年)から1959年(『戦後農民運動史』刊行)の間が空白となっているが、本調査によって常東から東茨城農民組織総協議会を経て茨城農民同盟結成に至る大まかな時期を把握しうる(文献8-15)。

第二に、2000年9月18日付西川長夫宛書簡(「松下清雄略年譜」とともに『立命館言語文化研究』掲載予定)にて松下が「私の最も華やかな時期」としている高知県における活動について、その一端が明らかとなった(文献1, 16-18)。

しかし第三に、本調査では明らかにしえなかった点も数多い。①茨城農民同盟の活動について。運動方針のレベルではある程度把握できるものの、具体的な活動については今回確認できた機

関紙がきわめて限られていることもあり判然としない。また、文献1にある茨城県農村労働組合連合会の活動についても現時点では不明である。②茨城県における活動期間について。「略年譜」では1961年上京し、62年以降農業関係の企画制作等を行うとあるが、文献19では1961年に開催された共産党第8回大会ののち、茨城県にて「党の役職を罷免されて（中略）居住細胞活動を継続していた」とある。一方、西川長夫宛書簡では共産党を追われた1年後に上京とされており、三者の記述にはそれぞれ一致しない点がある。③上京後の活動について。「略年譜」に記されているラジオ番組・テレビ番組について現時点では確認できていない。今後はこれらの点についても調査をすすめてゆきたいと考えている。

なお、今回調査を行った機関は下記の通りである。

法政大学大原社会問題研究所，京都大学附属図書館，同農学研究科生物資源経済学専攻司書室，同法学部図書室，同経済学部図書室（2008年7月31日作成）。